

大阪春闘共闘ニューズ

メーデーで、JMIUケーブル分会の南さん訴え

5月1日、扇町公園で開催された第80回メーデーでの決意表明で、JMIUケーブル分会の南幸子さんが、解雇撤回を求めるパート労働者として訴えました。前日の朝日新聞夕刊でも報道されています。

(夕刊)

2009年(平成21年)4月30日 木曜日

4版 12



あすメーデー

大阪府東大阪市の自動車部品会社を昨年12月に解雇された30〜50代の女性パート労働者5人が、解雇撤回と賃金支払いを会社に求め、交渉を続けている。5人全員が、家計を1人で支える「シングル」。リストラの波が押し寄せる中小企業の町で、不安を抱きつつ、励まし合いながら闘っている。
(清川卓史)

「大黒柱」の女性決起

東大阪 パート解雇撤回求め

解雇されたパート労働者の南幸子さん(右から2人目)らが劇を通して現状を訴えた。大阪府東大阪市、伊ヶ崎念撮影

28日夜に東大阪市内で開かれた「東大阪メーデー前夜祭」。5人の解雇をもとにした寸劇の上演後、当事者のうち4人が壇上に立った。03年からフルタイムパートとして働いた南幸子さん(57)は「あと3年働けば年金の受給資格もできたのに、人生設計が狂ってしまった」と職を奪われた悔しさを訴えた。

まるで自己都合

昨年12月、仕事のミスやコミュニケーション不足などを理由に解雇を告げられた。その場です上司に「もう年だし、別の就職先は見つからない」と食い下がったが、取り合ってくれなかった。

ことわかっていたはず」と突然の解雇への怒りを壇上で語った。

「仲間いたから」

昨年11月、「ミスが目立つ」と解雇を通告された後、会社から所定の退職届に、署名するよう求められた。文面に「一身上の都合により」とあり、まるで自己都合退職扱い。悔しさと涙がこぼれた。

時給制だがフルタイムで4年間働き、残業もした。月収は手取り12万〜13万円。奨学金を利子で返しているが、不足分の学費など教育関係の出費は毎月3万円を超えた。

母親の失業を知った娘は、高校を退学。この春から学費が安い単位制高校に転入し、アルバイトを増やして家計を助けた。「娘に高校だけは卒業させたい。自分が大黒柱なので、簡単に折れるわけにはいかない」と話す。

南さんらは東大阪地域労組「働く仲間の会」に相談。5人で話し合い、労組分会を結成した。みなシングル女性。互いに協力し合い、情報交換している。

会社との団体交渉では、「誰でもあるミスを理由にした解雇は不当」と主張。2月末には従業員としての地位確認と賃金支払いを求め、仮処分を大阪地裁に申し立てた。しかし、会社側は経営環境の厳しさを理由に硬い姿勢を崩さない。南さんは「1人だったら泣き寝入りしていた。仲間がいたから、こまめな交渉ができた。負けるわけにはいかない」と話す。

中小企業が集まる東大阪でも、大企業の下請け工場で受注が減っている。「働く仲間の会」によると、1〜3月で40件の相談があり、その大半は解雇問題。5人を支援する河野禮三委員長は「正社員、パート問わずリストラされている。団体交渉の申し入れが追いつかないほどだ」と話す。

5人のうち4人は5月1日、大阪市の扇町公園で開かれる全労連系の「第80回大阪メーデー」集会に参加し、職場復帰への決意を語る。